

(1) 研究主題

関わり合いを通して、生き抜く力を身につける子どもの育成

～保小中が一貫して行う、自己効力を高める取組を通して～

(2) 研究主題設定の理由

①日南の園児・児童・生徒の実態

1) 日南町について

日南町は、鳥取県の南西に位置し、岡山県・広島県・島根県の3県と隣接した、鳥取県の10分の1の面積を有する大変広い町である。山や川など豊かな自然に恵まれ、それを活かした農林業が産業の中心となっている。近年は、人口の減少が顕著であるのに加え、65歳以上の高齢者が町民の49.2%（H27 現在）である等、他の町村に比べて高齢化が進んでいる町である。

2) にちなん保育園・日南小学校・日南中学校について

日南町には保育園が3園あるが、その内の2園は小規模の分園である。一番大きな保育園であるにちなん保育園は小・中学校から100mしか離れておらず、児童生徒が保育園を訪問したり、教職員と保育士が連携を図ったりすることも容易にできる。

平成21年4月、6つの小学校が1校に統合され、中学校の隣に日南小学校が建設された。これにより、小学校の児童と中学校の生徒は、毎朝同じバスで登校し、時には同じバスで下校することとなった。児童生徒が日常的にお互いの姿を見ることができるようになったため、児童は中学生をあこがれの対象としてみるができるようになり、生徒の方はそんな対象となろうとの自覚を持つことができるようになった。また、体育館、グラウンド、プール、調理室、交流教室（多目的ホール）を共有する関係から、上履きで小中学校を行き来できるようになっている。このため、児童生徒も教職員も気軽にお互いの校舎を訪れることができるようになり、小学校と中学校の壁が非常に低くなったように感じる。教職員も日常的に情報共有できる環境にある。

3) 日南町の園児・児童・生徒を取り巻く環境について

児童生徒のおよそ75%が祖父母と同居しており、家族構成としては子育ての環境が安定している家庭が多い。一方で広大な地域の中で集落が点在している状況から、近所に同年代の子どもが少なく、子ども同士の関係づくりをする機会が少ない状況がある。このような要因から、子どもの問題に大人が介在したり、日常的なコミュニケーションの対象が大人になったりすることが多い。そのため、子ども自身が同年代の子どもと関わり合う中で育成される問題解決の力や自主性、コミュニケーション能力が育ちにくい側面がある。

また、小学校統合前、各小学校は校区の地域コミュニティの核の一つとして存在していたため、保護者はPTA活動に参加する中で緊密な保護者同士の関係を育んでいた。小学校統合はそのような保護者の関係づくりにも影響し、保護者同士の関わりは以前ほど強いものでは無くなってきている現状もある。そのような状況の中で地域における子どもへの声かけや子どもたちが地域と関わる機会が小学校統合前より少なくなっていると言える。

4) 日南町の園児・児童・生徒の実態について

日南町の子どもは、概ね素直で優しい。友だちの大切さを強く感じていることもあり、友だちとの関係も良好である。地域の行事にも積極的に参加し、「日南町が好きだ」とはっきり答える等、ふるさとに対して愛着を持っている。統合以降毎年、全児童生徒を対象にして、標準学力調査と i-check（自己肯定感・社会性などについての質問紙調査）を実施している。この i-check の項目の、「時間の管理」「授業への積極的参加」「学習の仕方」「家庭学習の習慣」などから、日南町の子どもたちは概して、自分で考える、判断する、決定する、実行するなどの「自主性」「自立性」「主体性」に関して弱い傾向がみられる。

また学年によって回答傾向に違いがあるが、「自分が好きですか」「自分には良いところがあると思いますか」「家の人、先生、友だちから認められていると思いますか」などの「自尊感情」や「自己肯定感」を問う項目に対して、肯定的な回答の割合が低い傾向もみられる。自信のなさや達成感を十分に得られないことは、学力にも関連しているとみられ、なかなか学力が定着しない原因になっていると考えられる。反面、「将来の夢や目標を持っていますか」「自分の力をできる限り伸ばしたいですか」等の項目では、子どもたちの肯定的回答（願い）が多いことから、「確かな自己の創造」が喫緊の課題である。

②研究の経過

1) 学校教育目標の設定

小学校の統合を好機ととらえ、小中学校が共通理解を図りながら実践を進めることで、児童生徒の課題の解決に向けた効果的な取り組みができると考え、統合の準備段階から、小中一貫教育を見据えた協議を積み重ねた。その中で、校訓、学校教育目標を小・中共通のものにすることを決定し、これが小中一貫教育を行う上での大きな基盤となった。

【日南小・中学校教育目標】

ふるさとに学び、夢に向かい、生き生きと輝く子どもの育成

2) 保小中一貫教育の推進により育みたい力

「ふるさとを愛し、豊かな人間性と生き抜く力を育み、次代を創造していく優れた人材を育成する」という日南町教育委員会重点目標の実現に向けては、学校、家庭、地域社会の三者の連携と関係の深化を追究する保小中一貫教育システムを活用した教育実践の具現化が望まれる。

本町では、平成21年度の小学校統合を機に、小中一貫教育プロジェクトを立ち上げ、これまで以上に小・中学校の連携と協働を図る環境と条件を整え、研究実践をすすめてきた。研究のねらいは、小・中学校の校訓でもある「生き抜く力」を育むことであり、その力を「確かな学力を身につける（授業づくり）」、「豊かな人間性や社会性を養う（仲間づくり）」、「健やかな身体と心を育てる（健康づくり）」の三視点からとらえ、それぞれに「子ども・学校・教師・家庭・地域」の相互のつながり（一貫教育の視点）を活かしながら、その実現に向けて研究体制・研究内容を実践している。

その中で取り組んできた教職員合同授業研、子ども支援連絡会議システム、子どもたちの交流活動、「ともいき科」の設置（平成27年度～）等は小・中学校の一貫性を高める具体的な実践としてさらに継続的、発展的に進めていきたいと考えている。

保育園と小学校との連携も深まり、保・小・中の一貫性をより充実させるとともに、日南町の豊かな人材、素材を活用した学習プログラムを整備・充実させ、「生き抜く力」の育成を図ることが今後の重要な課題である。

本町学校教育がめざしている『生き抜く力』は、一人ひとりの子どもたちに単なる勤労観、職業観を育成することだけにとどまらず、人間として、また社会人として自らの人生の中で生きがいを持ち、自分の人生を切り拓いていく力、社会の中で活躍、貢献するために必要な力を考え、身につけさせることを求めているものである。また、将来の日南町を担う人材として郷土を誇りに思い、郷土のために何ができるかを考えつつ、今の自分を磨く努力と経験を重ねることである。

そのために、子どもたちの縦のつながり（一貫性）と、日南町の豊かな人、自然、歴史、産業、社会を活かした横のつながり（連携・協働性）を重ねながら、一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくことをねらいとするものである。

3) 研究主題の設定

日南小・中学校の児童生徒の実態から、児童生徒の意欲を育て、高めることが児童生徒が持つ課題の解決につながると言える。さらに、自主性や主体性を育むことをめざして、学習における意欲にとどまらず日常生活における様々な活動の意欲を保小中連携・一貫教育を通して向上させることが有効である。これらの教育実践・研究を進めていくことが、めざす子ども像を実現し、校訓や学校教育目標の達成につながると考え、本主題「関わり合いを通して、生き抜く力を身につける子どもの育成 ～保小中が一貫して行う、自己効力を高める取組を通して～」を設定した。

4) 成果指標及び目標

- 保小中全学年・年齢において、日南町の人材、教材を活用した学習プログラムを開発する。
- 3部会の研究のねらい、内容を「生き抜く力」の育成に向けて明確に示し、保小中をつなぐカリキュラムを開発する。
- ともいき科を活用し、他者と関わる力、自分を表現する力、活動を企画運営する力を育てる。

(3) 研究の概要

①研究仮説

- 保育園より中学校卒業までの15年間を一貫した課題意識、指導体制で捉えることで、子ども一人ひとりの個性や能力の伸長が図られ、多くの関わり合いを通して、より自主的、主体的に活動できる子どもたちを育てることができるであろう。
- 自己効力を育てる指導や支援を行うことにより、園児・児童・生徒は意欲的に活動に取り組むようになり、確かな学力が身に付き、豊かな人間性・社会性が養われ、健やかな身体と心が育つであろう。

②4つの観点と4つの力

研究仮説に基づいて研究を進めるため、小中の全教職員で重点的に育成したい力を4つ設定した。さらに保と小中をつなぐために保育園で4つの観点を設定した。その後、4つの観点と4つの力のつながりを保小中の研修会で確認した。

1) 生きる力を育てる4つの観点【保育園、小学校】

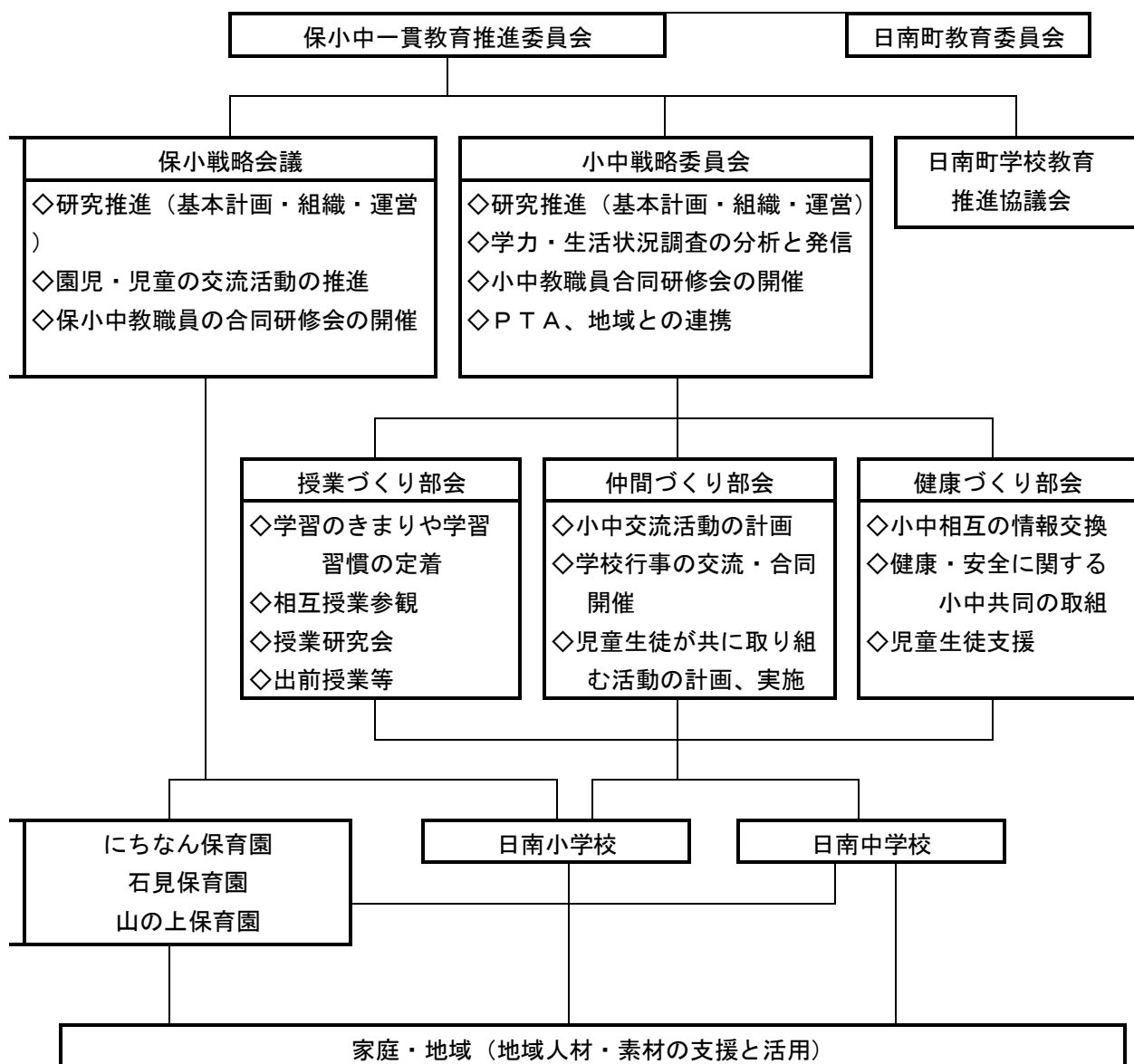
- 集団に慣れる
- 自己コントロール
- 人とかかわる力
- 主体性

2) 重点的に育成したい4つの力【小・中学校】

- 学力
- メタ認知（自分の力を知り、適切な目標を設定し、計画的に学習をして、それを振り返ることができる力）
- 話す力（自分の言葉で伝える力）
- 判断力・自己制御（自分で考えて行動する力）

③研究組織

1) 組織図



2) 保小戦略会議

【保小一貫教育の推進】

保育園と小学校が一貫した取り組み（保育や指導、支援）を行うことができるように研究全体の計画を検討し、推進体制や環境づくりに努める。それぞれの活動において、園児・児童がより意欲的になり、力を伸ばせるよう、その目標設定から評価までのサイクルを検討する。

3) 小中戦略委員会

【小中一貫教育の推進】

各校や各部会が一貫した取り組み（指導、支援）を行うことができるように研究全体の計画を検討し、推進体制や環境づくりに努める。それぞれの活動において、児童・生徒がより意欲的になり、力を伸ばせるよう、その目標設定から評価までのサイクルを検討する。

4) 授業づくり部会

ア 年間目標 【確かな学力を身につける】

自らの進路を切り開いていくための知識、技能を獲得することは不可欠であり、そのために「わかる授業」を創造していくことは学校・教師の大きな役割の一つである。そこで小・中学校9年間の連続性、継続性、系統性を持たせた学習指導について研究実践をすすめる。

イ 付きたい力（活動のねらい）

- 自分の力を知り、適切な目標に向かって計画的に学習に取り組む力
- 自主的、主体的に学習に取り組む力

ウ 取り組みの内容

- 標準学力調査（全学年）の実施
- 小中相互に教職員の授業参観と情報交換、共通 理解
- 小中合同授業研究会（指導法の工夫・改善）・・・知的構成型ジグソー法、ペアリングによる学習
- 教職員研修（教科学習、専門研修、ICT活用等）
- 9年間を見通したカリキュラム作成（TT、出前授業、年間指導計画、キャリア教育等）
- 小中連携した教材づくり（ホップ課題の作成）

5) 仲間づくり部会

ア 年間目標 【豊かな人間性・社会性を養う】

関わり合い、支え合い、高め合う人間関係において人は成長する。さまざまな人との出会いや交流で豊かな感性や人間性、社会性を育むことができる。異年齢の交流活動、地域とのふれあい活動などを通して、人との関わり合い、自尊感情や自己肯定感の高揚、コミュニケーション能力の向上などを図る研究実践をすすめる。

イ 付きたい力（活動のねらい）

- 関わり合い、支え合い、認め合い、高め合う力
- 自己評価や相互評価を通して自分を振り返る力
- 進んでコミュニケーション（相手に伝える）を図ろうとする力
- 相手の立場を考えた行動や場に応じた行動をする力

ウ 取り組みの内容

- ふれあい教室 ○小6 入学説明会（児童・保護者） ○合同音楽会
- 児童会・生徒会活動 ○異学年交流学习 ○人権教育 ○国際交流 等

6) 健康づくり部会

ア 年間目標 【健やかな身体と心を育てる】

人間関係が希薄であったり、コミュニケーションが苦手であることから、自分自身の身体や心をコントロールできない子どもたちが増えてきている。強健な体力、健やかな心をもとに強い自分を育てることとともに、子ども支援のサポート体制の充実を図る研究実践をすすめる。

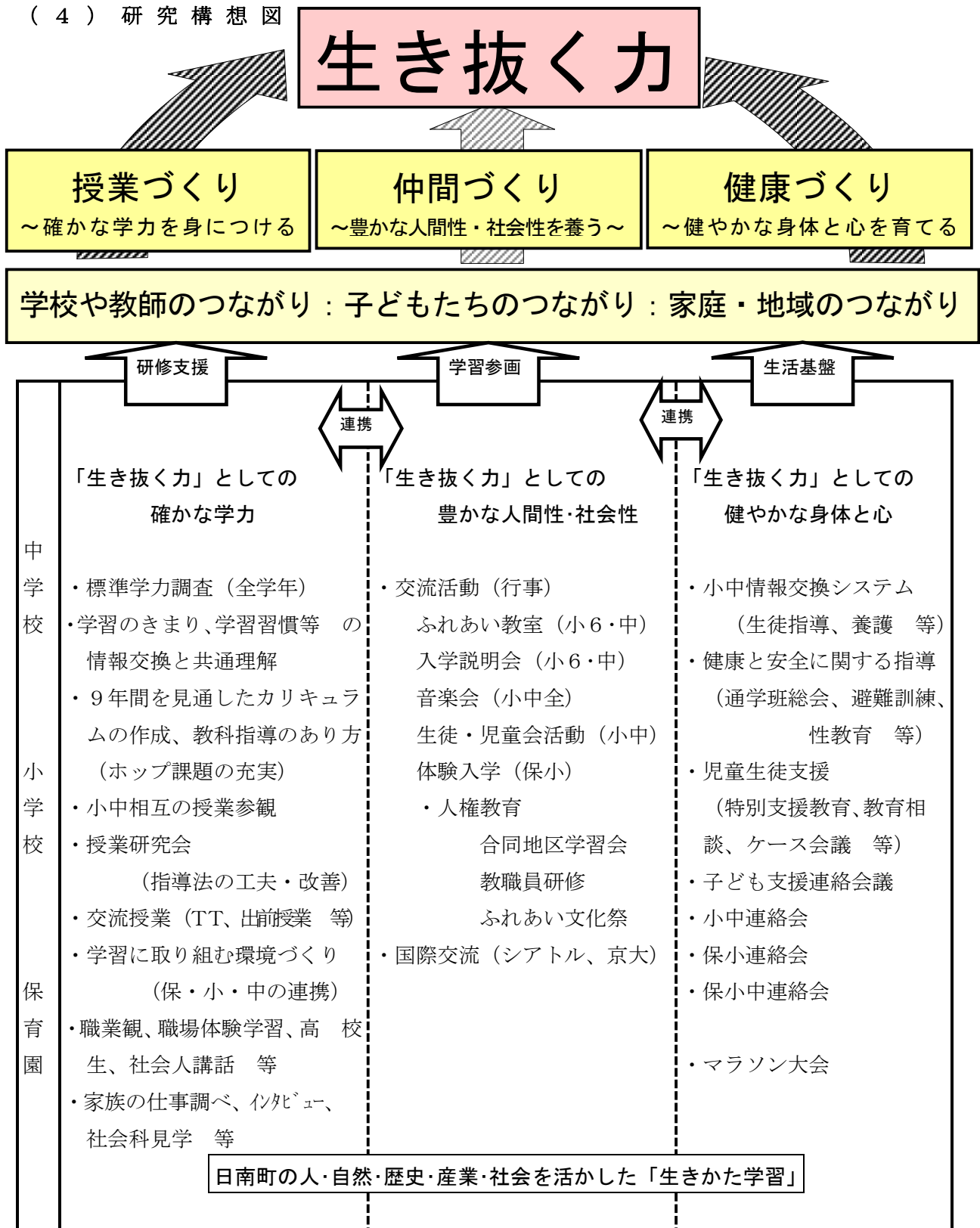
イ 付けたい力（活動のねらい）

- 身体と心を、自分自身で管理していく力
- 物事に自主的、主体的に取り組んでいく力
- 他人との関わり方を知り、上手にコミュニケーションがとれる力

ウ 取り組みの内容

- 保小中情報交換・児童生徒支援のシステムづくり
(特別支援教育、S C、S S W、福祉保健課、関係機関による合同会議、教育相談、ケース会議 等)
- 児童生徒の健康と安全に関する指導、合同職員研修
(通学班総会、避難訓練、交通安全教室、性教育、保健衛生指導、食に関する指導、ストレスマネジメント 等)

(4) 研究構想図



大 学・企 業

- ※教職員研修の充実
- ・自己効力測定尺度の活用
 - ・ジグソー法（授業法）
 - ・ペアリングによる学習
 - ・ICT教育の充実・活用

地 域

- ※学校支援地域ボランティア・学習支援 ・図書館
運営 ・子育て支援センタ
ー
- ・「ふるさと学習」
 - ・地域行事

家 庭

- ※PTA連絡協議会
- ・専門部
 - ・学年部
 - ・家庭教育講演会
 - ・子育て講演会(セミナー)